

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ~自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む~						
重点目標		①自ら学び考える主体的な力を育む。②わかった、できたと実感できる授業を展開し、基礎・基本の定着及び活用する力の向上を図る。 ③問題行動や不登校生徒の減少に向けた未然防止・早期対応の充実を図る。④ホームページ、メール配信等を有効に活用し、天中の教育を積極的に発信する。						
施策	実施施策の目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取り組み ③学校・家庭・地域の連携 ④情報活用能力の育成 ⑤英語教育の充実 ⑥デジタル化の促進	①授業方向を目指した授業改善の校内研修会を実施する。	①全国学力調査、学校評価、授業評価アンケート等をもとにわかりやすい授業を目指す。	①授業は「わかりやすく楽しい」と感じる生徒の割合を80%以上にする。	B	①77.7%という結果であった。今後も教師の授業力をさらに向上させていく必要がある。	①肯定的な回答が得られなかった生徒に目を向け、授業参観ウィークリーや公開授業ウィークリー等、教科を越えた授業研究に取り組み、教師一人ひとりの授業力向上を目指す。	①達成目標を引き上げて授業力向上をめざした取組を進めている点は評価できる。校内研修は今後も継続して進めることを期待する。
		②誰一人取り残さない個別最適な学びを実現する。	②ICT機器を効果的に活用したり、UDの観点を取り入れたりして、個々に応じたわかりやすい授業づくりに取り組む。	②「先生は、教え方に工夫している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。		②91.9%と目標を達成した。	②研究テーマ達成に向けた授業づくりに取り組んでいる。	①ICT機器を有効に活用するなど個に応じた学習を進めていくことにより学力の向上につなげていくことを期待する。
		③家庭・地域や校区内の幼小中学校と連携し、学力向上、学びに向かう力を推進する。	③校区内の幼小や家庭との連携を推進する。地域の協力を得た土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校便り等を通して、本校の様子を発信する。	③校区内の幼小の合同研修会を年1回実施する。土曜スクールを12回実施する。また、ホームページは月10日以上、学校便りや学年便りは月4回以上発行する。		③校区内の幼小の合同研修会を実施し、課題や取組について協議することができた。また、土曜スクールは12回実施し、自主学習や入試に向けた面接練習等を実施した。ホームページは月10以上の更新。学校便りや学年便りは月に4回以上の発行に加え、まなびポケット等を活用し積極的に本校の様子などを発信することができた。	③全ての学年において、積極的な学校情報の発信に努め、地域・家庭との連携を図っていく。	③全ての学年において、積極的な学校情報の発信に努め、地域・家庭との連携を図っていく。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けた組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①「考え、議論する道徳」及び「心の教育」を推進する。	①道徳のローテーション授業や道徳科授業研究会を行うことで教員の指導力向上を図り、全ての教育活動を通して思いやりの心を育む。また、道徳・人権教育講演会を実施し、外部講師による教育の推進を図っていく。	①「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらった」の生徒の割合を90%以上(A評価で55%以上)にする。	B	①自分を大切にすることや他人への思いやりについて教えてもらった。A評価は46.7%となった。	①道徳のローテーション授業による授業改善や校内道徳研究会を行うことで更なる教員の指導力向上を図り、全ての教育活動を通して思いやりの心を育む。また、道徳・人権教育講演会を継続し、外部人材による教育の推進を図っていく。	①道徳のローテーション授業による授業改善や校内道徳研究会を行うことで更なる教員の指導力向上を図り、全ての教育活動を通して思いやりの心を育む。また、道徳・人権教育講演会を継続し、外部人材による教育の推進を図っていく。
		②いじめ問題への対応力の向上に取り組む。	②2年2回のいじめ等に関する実態把握のためのアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に組織的に取り組む。また、いじめのない風土づくりのため、警察や心理士等の関係機関や専門家による講演会を行う。	②「学校へ行くのが楽しい」という質問に肯定的回答をする生徒の割合を昨年度(83.8%)以上にする。また、「先生は、良いことは良い、悪いことは悪い」と感じている生徒の割合を昨年度(94.9%)以上にする。		②「学校へ行くのが楽しい」83.2%。「先生は、良いことは良い、悪いことは悪い」と感じている93.1%であった。アンケートの実施や関係機関等の講演会に一定の効果がみられたが、指導体制や方針の見直しが必要である。	②重層的な支援体制を意図した教育活動の推進と、いじめや問題行動の早期発見と未然防止に努め、学校風土の向上を図る。また、学校の指導体制や指導方針を整えるため、研修会を行うとともに、家庭や地域との連携を図る。より効果的な講演会の実施のため、実施内容や時期を吟味する。	②いじめの早期発見や未然防止に向けて、生徒とのコミュニケーションの充実を図り、教員のアンテナを敏感に働かせ、今後も学校一丸となって取り組むことを期待する。
		③不登校の予防に努める。	③一人一人の居場所作りを、保護者との関係を築く。また、必要に応じてSCやSSWなどの関係機関と連携する。	③「先生は生徒の悩み事や不安に親身になって相談のしてくれる」という生徒の割合を90%以上にする。		③「先生は生徒の悩み事や不安に親身になって相談のしてくれる」という生徒の割合を90%以上にする。	③「先生は生徒の悩み事や不安に親身になって相談のしてくれる」という生徒の割合が90%を下回った。	③居場所「場所」ではなく「人」であることを認識し、教育相談の充実、生徒との関わりを深めていく。また、保護者との連携も充実させる。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等関係機関との連携を図る。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①運動の習慣化を図る。	①主体的に体力向上に取り組める生徒を育成する。	①体力・運動能力、運動習慣等調査で男女とも全国平均以上にする。	A	①今年度も平均以上を上回る事ができた。	①今後も継続して主体的に体力向上に取り組めるようとする。	①今後も継続して主体的に体力向上に取り組めるようとする。
		②部活動の活性化を図る。	②充実させる内容(目標)を各活動で持たせ、活動していく。部活動で学んだことが、日常生活に役立つことを実感させる。	②「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。		②「部活動が充実している」と感じる生徒の割合が90%を上回った。	②今後も継続して取り組むとともに、地域展開に向けて円滑な移行ができるように地域クラブの周知や地域クラブとの関係構築を検討する。	②部活動の地域展開に伴い、学校での体育の授業を通じた運動の機会が貴重となる。今後も子どもたちが主体的に体力向上に努められる取り組みを期待する。
		③規則正しい生活習慣の獲得を図る。	③生徒一人ひとりの生活リズムへの意識を高めさせる。また、早寝・早起き・朝ごはんについて家庭と連携する。	③「規則正しい生活習慣を送っている」の項目の生徒の割合を80%以上にする。		③「規則正しい生活習慣を送っている」の項目の生徒の割合を80%以上にする。	③全体としては74.4%であり、学年ごとでも80%を超えている学年はなかった。1年生68.1%、2年生74.1%、3年生79.9%と、学年が上がるにつれて増えているため、継続した取組の効果がみられる。	③委員会活動を活性化させ、1年生時から、生活習慣を見つめ直す機会をつくり、改善を図る。
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①主体的な進路選択を支援する。	①生徒向けの進路学習会(学年集会)を定期的に実施し、生徒自身が進路に対する不安を軽減する。学級担任とのきめ細かい対話を大切にし、保護者向けの進路説明会でも、質疑応答の時間を多くとり保護者の不安を軽減できるように心がける。また、オープンスクール情報をホームページに掲載し、情報の周知をはかる。	①「学校は、進路について情報を保護者に知らせるとともに、適切な進路指導を行っている」の保護者の割合を80%以上に維持し、その中でもよくあてはまるを30%以上にする。また、キャリアパスポート等を活用する。	B	①「学校は、進路について情報を保護者に知らせるとともに、適切な進路指導を行っている」の保護者の割合は、3年生の保護者の割合は目標を達成できているが、1、2年生の保護者の割合は80%を下回った。	①1、2年生の保護者対象の進路説明会を3学期ではなく、2学期に予定するなどの検討を行い、進路の情報を早期から周知していく。また、日々の授業や活動の中で、進路指導を意図して指導を行い、進路に対する意識を持たせ、自己決定力を養っていく。	①生徒や保護者生徒の主体性を大切にし、今後も継続して生徒一人ひとりに対応した進路指導を進めたいことを期待する。
②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。		②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと積極的に連携する。	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーに行き渋りのある生徒の情報を必ず共有し、積極的に連携する。不登校生徒の割合を昨年度以下を年間通して達成する。	②不登校生徒の割合は増加傾向にある。週1回、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと情報共有を行い、連携を図ることができた。		②わかる授業づくり、教育相談の充実、個別の支援の充実を図り、きめ細かな指導や情報共有を徹底する。また、校内サポートルームを充実させ、不登校生徒の教室復帰をめざす。	②不登校傾向の生徒に対してはきめ細やかな支援を行うとともに校内サポートルームの充実を希望する。	
③教育相談を充実させる。		③教師間の情報交換、情報共有を密に行う。生徒が相談しやすい環境をつくる。	③「先生は生徒の悩み事や不安に親身になって相談のしてくれる」という生徒の割合を90%以上にする。	③「先生は生徒の悩み事や不安に親身になって相談のしてくれる」という生徒の割合が90%を下回った。		③教育相談部を中心に、生徒理解や個別支援のあり方についての研修や日々の環境づくりに取り組む。	③教員のアンテナを高く生徒に寄り添う教育相談を今後も実施することを希望する。	③教員のアンテナを高く生徒に寄り添う教育相談を今後も実施することを希望する。
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①伊丹特別支援学校と連携する。	①年度当初に、保護者、特別支援学校担当、コーディネーター等で年間計画を立て、それに基づいて交流を図っていく。	①特別支援学校生徒との交流及び共同学習を計画的に進め、相互理解を深める。	B	①今年度は特別支援学校生徒2名と月2回以上の共同学習を実施した。交流学習や特別支援学校相互の理解を深めることができた。回数や内容について検討が必要である。	①年度当初に、保護者、特別支援学校担当、コーディネーター等で年間計画を立てるとともに、教育活動や生徒の実態に応じた対応も検討する。	①特別支援学校との交流に関して、両校の目的を明確にしてよりよい交流が進むことを希望する。	
	②特別支援教育の充実を図る。	②特別支援教育推進委員会を中心に関係機関との連携を図り、特別支援教育の理解を深め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を充実させる。	②特別支援教育推進委員会を中心に保護者、教師間との連携を図る。また、教育支援センターである伊丹特別支援学校の機能(コンサルテーション等)を活用する。特別支援委員会から通信を発行し、特別支援教育の知識を広げ、支援理解に役立てる。		②推進委員会を中心に学年会等で教育的ニーズを考慮することができた。また、特別支援学校の機能等を参考に生徒支援を行った。テニスボールを全教室の机・椅子に取り付けると教室環境整備に取り組んだ。今後もすべての生徒に配慮した学級づくりに取り組む必要がある。	②学級経営をするに当たり、学年会や研修会で情報収集をし、実態を共通理解した上で、全職員で一人ひとりの生徒の支援を行う。	②特別支援教育推進委員会を通して教員間の情報交換を密にし、個々の生徒に適切な合理的配慮を推進してもらいたい。	
	③教職員の資質向上	③校内外の研修に積極的に参加する。校内研修会、自主研修会を実施し、指導力の向上を図る。	③校内外の研修に積極的に参加する。校内研修会、自主研修会を5回以上実施し、OJTを活かした指導力向上を図る。また、教員同士の授業参観や1人1人の公開授業を実施し、教員の授業力向上に努める。		③校内外の研修に積極的に参加する。校内研修会、自主研修会を5回以上実施し、OJTを活かした指導力向上を図る。また、教員同士の授業参観や1人1人の公開授業を実施し、教員の授業力向上に努める。	③校内外の研修に平均15.8回参加し、各自が積極的に指導力向上に努めることができた。また、校内研修会を5回実施し、OJTを活かした指導力向上を図ることができた。教員の授業力向上に関しては教員同士の授業参観や1人1人の公開授業を実施した。	③アンケート項目の「授業は、わかりやすく楽しい」の割合が77.7%と目標を下回っていたので引き続き授業力向上につながる研修会を実施する。	③授業改善は教員にとって重要な仕事の一つである。主体的に深く対話的な学びを育て授業の構築を今後も校内研修を通して実践していくことを希望する。
学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携、協働体制の構築	①コミュニティ・スクールの充実を図る。	①学校・家庭・地域の連携、協働体制の一層の充実を図る。	①学校運営協議会を3年間開催し、生徒、保護者、地域共同の場を設け、課題解決に向けた協働体制を整える。	B	①学校運営協議会を3回以上開催することができた。熟議した内容を職員、全校生徒で共有し、取組につなげることができたが、着手できていない取組を進める必要がある。	①運営協議会が出た内容について、生徒会活動推進委員会と共有し、各委員会活動に反映させていく。	①「学校、家庭、地域が一体となって生徒と共に考え、より良い方向へつながっていくことができた。今後も、熟議を通して学校の課題解決に向けて取り組むことを期待する。	
	②地域・保護者との連携を図る。	②PTA主催行事・地域の行事等に参加する。	②「保護者や地域のひとと一緒に活動する機会に参加している」の教師の割合を75%以上にする。		②保護者、地域のひとと一緒に活動する機会に参加していると回答した割合は昨年度より約9%上昇し69.8%となったが、目標とする75%に届かなかった。	②一定の成果が見られるため、今後も地域と関わりのある活動についてその意義等を周知徹底し、地域・保護者との連携を図る。	②交流活動を通して地域や保護者との連携を進めるとともに、生徒自身が地域の一員として主体的に考え活動できる場が増えることを期待している。	
	③安全・安心な教育環境の充実	③生徒一人ひとりが正しい交通ルールを理解し、交通安全に努める。	③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらった」と感じる生徒の割合を90%以上に維持する。		③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらった」と感じる生徒の割合を90%以上に維持する。	③生徒の割合は91.9%と高かったが、保護者は89.1%であった。	③一定の成果が見られるため、今後も地域と関わりのある活動についてその意義等を周知徹底し、地域・保護者との連携を図る。	③危険意識を高く持ち、生徒自身が考え行動できるような安全・防災・防犯教育を推進していくことを期待する。
安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練、防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①防犯訓練・防災教育の充実を図る。	①防犯管理マニュアル等を活用し、的確な防災教育を実施する。	①防犯や災害が発生した際の対応を身につけるため、年2回の避難訓練を実施する。	B	①災害が発生した際の対応を身につけるため、年2回の避難訓練を実施した。	①社会状況に対応し、2回の避難訓練に加え、不審者対応の防犯訓練の実施を検討する。	①危機管理意識を高く持ち、生徒自身が考え行動できるような安全・防災・防犯教育を推進していくことを期待する。	
	②安全・安心な教育環境の充実を図る。	②熱中症対策、感染対策等の充実を図る。	②普段から熱中症対策と感染対策について未然防止および初期対応の充実を図る。		②熱中症対策としてスポーツドリンクの許可や、WBGT計の活用。換気の継続など実施した。	②保健室からの情報発信を中心として、熱中症対策を徹底していく。	②熱中症対策や感染対策について保健室等からの情報発信を今後も期待する。	
	③子どもの交通安全対策の充実を図る。	③生徒一人ひとりが正しい交通ルールを理解し、交通安全に努める。	③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらった」と感じる生徒の割合を90%以上に維持する。		③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらった」と感じる生徒の割合を90%以上に維持する。	③引き続き交通安全指導を進めるとともに、家庭へも伝わるよう情報発信をしていく。	③「各清掃場所を清掃を徹底できている。」と感じている教師が5.6%であった。清掃場所や教師分担の改善を図るとともに、清掃指導の工夫を職員全員で検討していく。	③清掃活動に対する生徒の意識を高めるために、委員会活動の活性化や家庭と連携した取組を進めることを期待する。
働き方改革の推進	④学校施設の整備・維持保全	④それぞれの場所において、環境設備を点検する。	④それぞれの場所において、月1回の破損箇所や修理の必要な箇所を点検する。掃除用具の充実を図る。「学校や教室が、学習や生活の場として美しく整っている」と感じる生徒の割合を70%以上にする。	B	④「学校や教室が、学習や生活の場として美しく整っている。」と感じる生徒の割合が76.8%で目標を達成することができた。また、掃除用具点検や掃除用具の補充を行うことができた。	④「各清掃場所を清掃を徹底できている。」と感じている教師が5.6%であった。清掃場所や教師分担の改善を図るとともに、清掃指導の工夫を職員全員で検討していく。	④清掃活動に対する生徒の意識を高めるために、委員会活動の活性化や家庭と連携した取組を進めることを期待する。	
	⑤学校における働き方改革の推進	⑤業務改善委員会を行い、働き方改革の充実及び業務においてデジタル化を図る。また、超過勤務時間の削減を推進する。	⑤業務改善委員会を行い、働き方改革の充実及び業務において必要に応じてデジタル化を図る。また、超過勤務時間の削減を推進する。		⑤定期的に行われている各種推進委員会において、業務改善につながる取組を急進的に実施していることができた。	⑤定期的な業務改善委員会を開催し、引き続き、分掌内や分掌をまたぐ業務の整理を行っていく。	⑤「学校の業務管理・健康確保措置実施計画の策定に伴う業務改善について積極的に取り組んでいくことを希望する。	

学校関係者評価総括  
 ・学校長のリーダーシップのもと、教師が一丸となって学校教育目標の具現化に向けて成果が現れていることは、生徒や教職員の様子から伝わってくる。  
 ・校内研究をはじめとして課題に対応した取り組みを進め、生徒一人ひとりのことを深く考えた温かみのある教育を実践している。今後は「主体的に深く対話的な学び」を育むために必要な探究学習の推進を希望する。  
 ・毎年夏休み開催している「天中・夢サミット」や地域連携での生徒たちの活躍等、若人の力に期待し、より発展的に実施することを希望する。  
 ・本年度の天王寺川中学校の学校自己評価については高いに評価する。本年度の成果と課題も詳細に検討されている。次年度の取組により更に発展、充実する天王寺川中学校を目指してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・ユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくり、主体的・協働的な学びの日常化、子どもの学びの見取りと価値づける評価や手立ての充実を図る。校内研究を充実させ、教職員の授業力を向上させる。  
 ・生徒や保護者とのコミュニケーション、個を大切にしたいきめ細やかな支援により、信頼関係や人間関係の構築に努める。研究、教育相談、生徒指導、特別支援教育を一体化させ、生徒の発達を支え、主体性や自ら考え行動できる自己指導力を育成し、未然防止教育に努める。また、事業が発生した際は、教職員が連携して組織的に対応し、初期対応や早期支援に注力する。  
 ・教員自らがより良い指導方法や生徒への支援等を学ぶことで、生徒の学びを育て、教員の学びこそ子どもの学びに影響を与えるという意識を持ち、協働的に学び続ける職員集団をめざしていく。